

環境情報の『見える化』



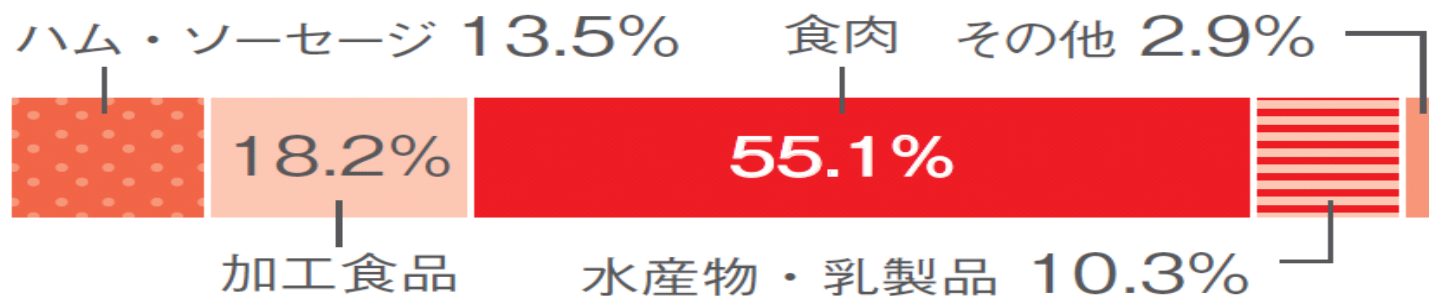
日本ハム株式会社
社会・環境室

日本ハムグループの概要

- 【設立年月日】 1949年5月30日
- 【資本金】 24,166百万円(2009年3月31日現在)
- 【売上高】 1,028,449百万円(2009年3月、連結)
- 【事業所】 工場:95ヶ所、営業所:331ヶ所
研究所:2ヶ所(2008年9月、連結)
- 【従業員数】 28,637名(2009年3月、グループ合計)

【日本ハムグループの事業構成比(%)】(2009年3月、連結)

※金額ベース



日本ハムグループの事業領域

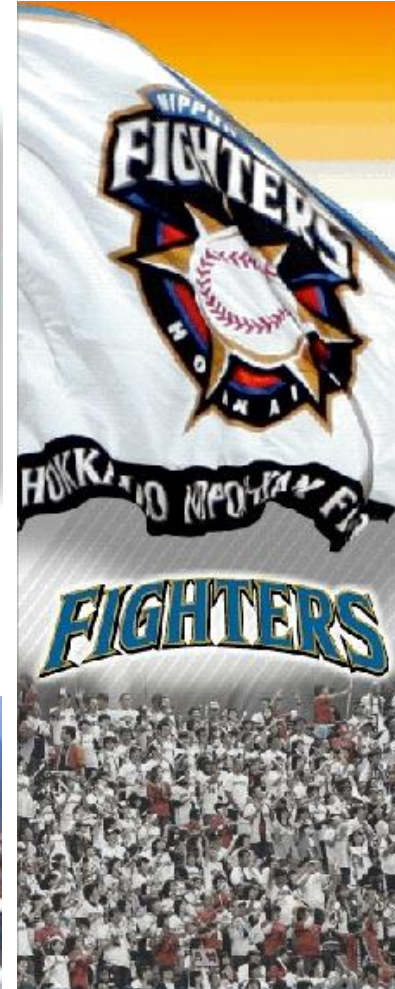


ハム・ソーセージの製造から始まった日本ハムグループの事業は、現在では、多くの加工食品や水産品、乳製品など、お客様の食卓に上るバラエティ豊かな食材や商品にまで広がりをみせています。

さらに、健康食品など新たな食の未来へ、私たちは、おいしさに「楽しさ」「喜び」「健康」をプラスしていきます。



日本ハムグループの商品・サービス(一部)



環境宣言

21世紀を臨むに際して、最も重要な課題の一つが環境問題です。今日、私達は地球という環境が作り出した自然の恵みと、文明の恩恵を十分に享受し、豊かな社会に暮らしています。しかし、この豊かさを支えるために、膨大な資源やエネルギーが利用され、消費され、破棄されています。その結果、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊といった人類の生存基盤を脅かすような地球環境問題が論議されるようになってきました。私達が行なう通常の事業活動や日常生活においても、地球環境に配慮した行動が求められます。私達は、私達の子供達に美しい地球を残さなければなりません。日本ハムグループは「幸せな食創り」を基本テーマとし、世界中の人達に縁を拡げ、すべての人達が健康で幸福な生活をおくることに貢献してきました。私達、日本ハムグループが、この環境問題に取り組むことは、企業としての責任であり使命であると思います。ここに、日本ハムグループは、自然のいとなみを尊重し、企業活動において環境との調和、環境へのやさしさを実現してゆくことを経営課題の一つに挙げます。環境問題への理解を深め、一人一人が、業務の中でまた日常生活の中で環境へのやさしさを実践して頂くことを日本ハムグループの全員に対して要望致します。

平成10年4月
日本ハム株式会社

環境憲章

環境理念

日本ハムグループは、自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことは私たちの責任であると考え、企業活動のあらゆる面で継続的に環境保全に取り組みます。

環境行動指針

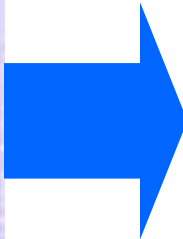
我々は、環境問題への理解を深め、一人一人の業務において、環境へのやさしさを実践します。

1. **環境・安全に配慮した商品・サービスの開発に努めます。**
2. **省エネ・省資源・環境負荷低減に努めます。**
3. 推進体制の整備や意識向上をはかり、環境管理システムの充実に努めます。
4. 法規制の遵守はもとより必要に応じて自主基準を設定し、環境保全水準の向上に努めます。
5. 環境保護活動を通して、地域社会との協調・融和に努めます。

容器包装への取り組み - 1

容器包装の本来持つ役割(保存性、形状保持など)を満たした上で、削減する方法はないか？

石窯工房 フランスパンのピザ



トレーの廃止.....約10gの容器包装削減
包装フィルム削減.....包装フィルムサイズを縮小し、約2g削減

※削減量は、何れも当社従来品比

容器包装への取り組み - 2

上級森の薫り ロースハム・ももハム・ベーコン



包装フィルムの使用量を16%削減

包装フィルムの使用量を10%削減

※削減率は、何れも当社従来品比

事業活動と環境負荷 (2008年度、国内)



製品
665 千トン

NH
Nippon Ham Group

温室効果ガス排出量
610 千トン (CO₂換算・昨年比95.76%)

容器包装ゴミ

プラスチック	10,063 トン
紙	1,211 トン
ビン	1,598 トン
ペットボトル	2.8 トン

副産物・廃棄物

発生量	722 千トン
処分量	13 千トン
リサイクル量	708 千トン

排水 9 百万 m³

私の事業所は？ 製品は？

集計・公表する「環境負荷量」はグループ全体や事業単位ごとに合計した数値が多くを占めていました。

素朴な疑問・・・

作業を工夫して廃棄物を減らすとどうなるのだろうか？

商品のパッケージを変更するとどんな影響があるのだろうか？

エコ・ドライブ運転するとどれだけ環境負荷が減るのだろうか？



作業ごとや商品ごとなど、より小さな単位で活動の結果(成果)を「見える」ようにすることが大切

事業所ごとの環境情報を「見える化」



事業所ごとに、担当者が月間のエネルギー使用量や廃棄物の発生量、車両燃料使用量などを取りまとめ、データベースに入力。

電力使用量 燃料使用量 水使用量 車両燃料使用量 廃棄物量



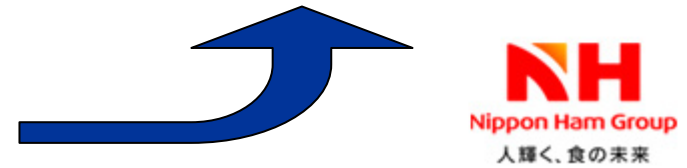
データベースに入力されたデータを取り纏め、改善度や排出量に換算。

【2009年度 子会社別環境データ 一覧表】(単位:千円)

事業所	項目	2009年度	2008年度	2007年度	2006年度	2005年度
1	電力使用量	10000	9500	9000	8500	8000
2	燃料使用量	5000	4800	4600	4400	4200
3	水使用量	2000	1900	1800	1700	1600
4	車両燃料使用量	1500	1400	1300	1200	1100
5	廃棄物量	3000	2800	2600	2400	2200

【日本ハムグループ CO2排出量】 (単位:千トン)

事業所	2009年度	2008年度	2007年度	2006年度	2005年度	2004年度
1	1000	950	900	850	800	750
2	500	480	460	440	420	400
3	200	190	180	170	160	150
4	150	140	130	120	110	100
5	300	280	260	240	220	200



商品の環境情報を「見える化」

エコリーフ

製品環境情報

Product Environmental Aspects Declaration



No. CP-07-001

オーストラリアで飼育した
牛を店頭に届けるまでの
環境負荷を算定

カーボンフットプリント



422g

CO₂

カーボンフットプリント試行事業
<http://www.cfp-japan.jp>
検証番号: CV-AI-005



638g

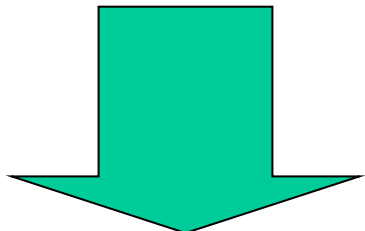
CO₂

カーボンフットプリント試行事業
<http://www.cfp-japan.jp>
検証番号: CV-AI-001

LCAへの取り組み

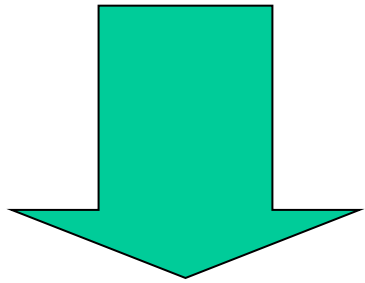
2007年度
エコリーフへの
取り組み

環境ラベル「エコリーフ」で「牛肉」を対象としたPCRの策定を実施。その後、「オーストラリア産牛肉」について算定を行い、食品分野で初めてとなる、エコリーフの認定を受けました。



2008年度
CFPの試行
算定への
取り組み

「カーボンフットプリント制度の実用化・普及推進研究会」へ参加、エコプロダクツ展2008でのCFP算定商品展示に向け、活動しました。弊社は、ハム・ウインナー・ピザのCFP試行算定結果を展示しました。



品名	規格	単位	CO ₂ 当量 (g)
ハム	248g	個	1.1
ウインナー	100g	個	0.8
ピザ	248g	個	1.2

※CO₂当量は、製品1単位あたりのCO₂当量を示しています。単位は、CO₂当量 (g) です。

2009年度
商品への
CFP表示

2008年度の研究会活動を受けて、「カーボンフットプリント制度試行事業」へ「ハム・ソーセージ類」を対象とした活動を始めました。11月度の委員会にてPCRの認定を受け、以後、商品のCFP算定を進め、2010年1月CFPマークの使用許諾を得ました。
(対象商品は、森の薫り あらびきウインナー・ローズハム)



エコリーフへの取り組み - 1

製品環境情報

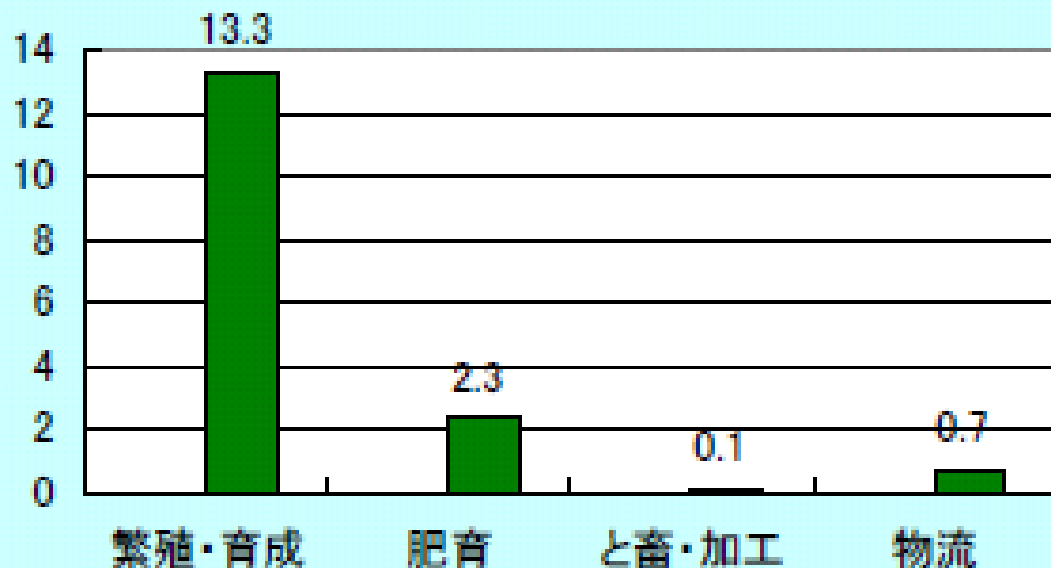
Product Environmental Aspects Declaration

ライフサイクルでの消費・排出	全ステージ合計	
温暖化負荷(CO ₂)換算	16.4	kg
酸性化負荷(SO ₂)換算	0.003	kg
エネルギー消費量	15.7	MJ

牛肉 (PSC No. CP-01)

オーストラリア産牛肉1kg当たり

各ステージの温暖化負荷CO₂換算値[kg]



エコリーフへの取り組み -2

算定データ収集の過程で、どこから・どのようなデータを収集し、どのように取り纏めるのか、また、負荷の大きな活動にはどのようなものがあるかなどの知見を得ました。

2. 製造ステージ情報

(1) 繁殖・育成ステージ情報(牛肉1kg当たり)

・SOx, NOx量は、それぞれSO₂, NO₂換算値。

消費	区分	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー			
	内訳項目	電力(kWh)	ガソリン(kg)	燃料用軽油(kg)	燃料用軽油(kg)			
	量	2.08E-02	9.01E-03	1.52E-02	4.30E-03			
	説明		車両	車両	物流			
排出	区分	大気	大気	大気				
	内訳項目	CH4	CH4	N2O				
	量	6.08E-01	9.63E-03	9.68E-04				
	説明	反芻	糞尿	牧草				

【解説】

(2) 肥育ステージ情報(牛肉1kg当たり)

消費	区分	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	
	内訳項目	電力(kWh)	燃料用石炭(kg)	ガソリン(kg)	燃料用軽油(kg)	燃料用軽油(kg)	燃料用軽油(kg)	
	量	6.82E-02	3.58E-02	3.27E-04	8.63E-03	9.79E-03	1.89E-03	
	説明			車両	車両	飼料	物流	
排出	区分	大気	大気	大気				
	内訳項目	CH4(kg)	CH4(kg)	N2O(kg)				
	量	6.18E-02	3.92E-03	2.77E-03				
	説明	反芻	糞尿	糞尿				

【解説】

※詳細につきましては、社団法人産業環境管理協会のウェブサイトをご覧ください。

カーボンフットプリントへの取り組み -1

PCR(プロダクト・カテゴリー・ルール:商品種別算定基準)の原案策定

2009年2月 平成20年度「試行PCR策定自主WG支援事業」に応募
ハム・ソーセージを対象としたPCR原案の策定を開始。

2009年8月 PCR原案作成計画を申請。(社)産業環境管理協会の
～10月 指導を受け、PCR原案の策定を実施。

2009年11月 「ハム・ソーセージ類」のPCRが認定を受けた。

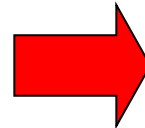
PCR原案策定では、

- 1) ライフサイクル全段階で、どのような要因が大きな割合となるか
 - 2) CFPを算定する際に、どのようなデータが収集可能で、収集困難なデータにはどのようなものがあるか
 - 3) シナリオの適切性をどのように担保するか
- などを考慮しながら策定すること、また、「試算」することも大切

カーボンフットプリントへの取り組み -2

CFPの算定

- 1) 認定されたPCRを確認し、算定に必要な基礎データを収集する。
原材料の購入先、生産工場のエネルギー使用量・廃棄物発生量
商品の出荷先、ダンボールや包装フィルムの重量 ……
- 2) 「カーボンフットプリント算定結果・表示方法検証申請書」へ纏める。
集計したデータの対象期間、データの出典、計算のチェック
※提出前に社内で複数人によるチェックが必要
- 3) 事前検証
CFP検証員により申請内容がチェックされます。
検証までの期間が短いため、スピーディーな対応が必要
- 4) 検証
「適当」と判断されれば

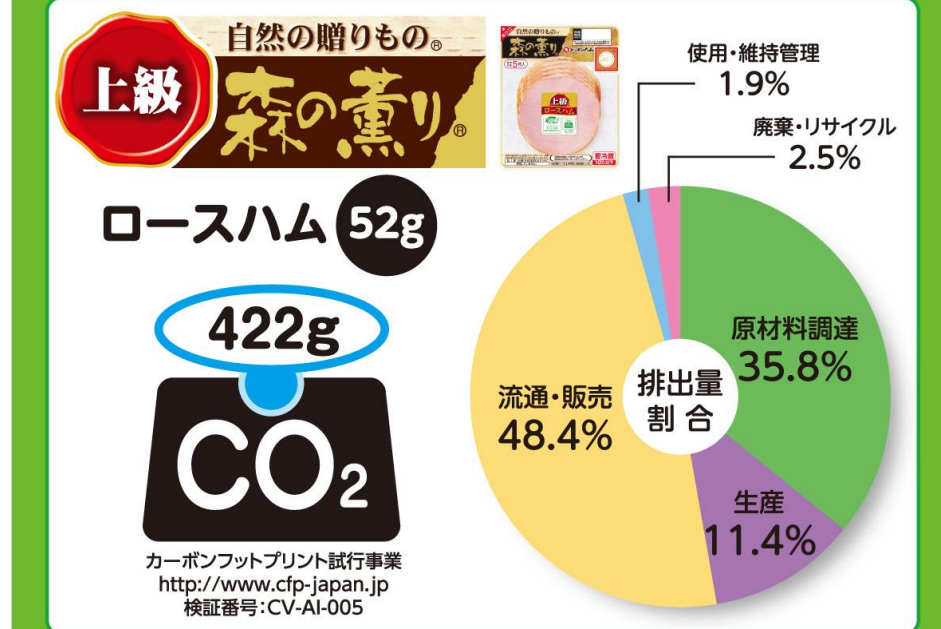
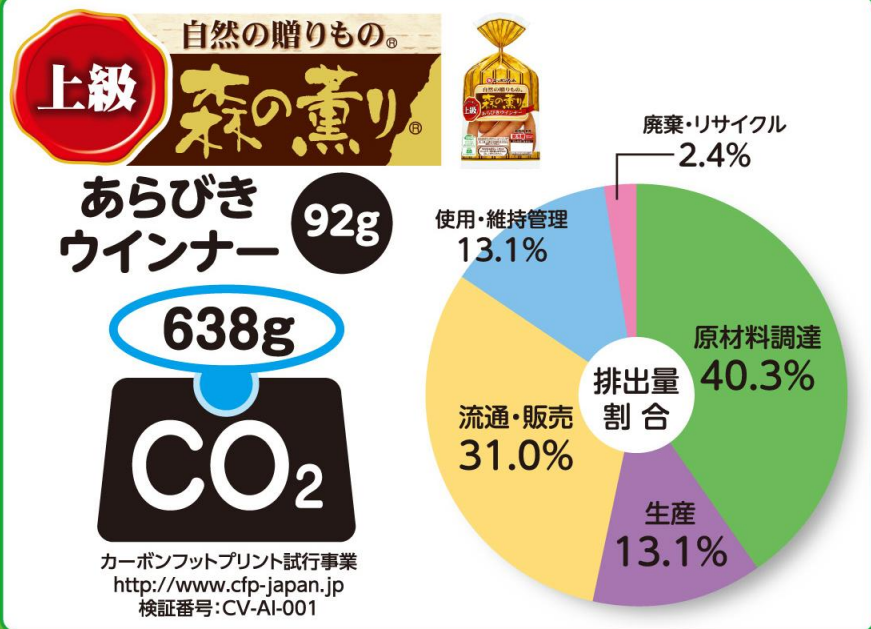


商品に
CFPマークを
表示

カーボンフットプリントへの取り組み - 3

商品へのCFPマーク表示とより詳細な情報の提供

1月14日に「カーボンフットプリントホームページ」にて、詳細情報が公開され、ウインナー・ロースハムへCFPマークを表示した商品の展示を開始。2月1日より同商品の発売を開始しました。



カーボンフットプリントへの取り組み - 4

より詳細な情報をお客様へ

商品の発売に合わせて、カーボンフットプリントの情報をお知らせするため、携帯電話サイトをオープンしました。

上級森の薫りロースハム52g



●この商品の原材料の生産からパッケージ等の廃棄・リサイクルをするまでに発生するCO₂をあわせた量をカーボンフットプリントマークに表示しています。

●各段階でのCO₂量

- ①商品の原材料を調達する時のCO₂量:151g
- ②商品を生産する時のCO₂量:48.1g
- ③商品を運んで販売する時のCO₂量:204g
- ④商品を保管する時のCO₂量:7.69g
- ⑤ゴミを処分する時のCO₂量:10.3g

より詳しい内容はカーボンフットプリントのホームページURL(<http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/permission.html>)に掲載しています。



商品の陳列に合わせてQRコードを表示します。

今後、私たちが取り組むこと

私たちが事業活動を営む中で、発生する環境負荷を減らしていくために、どのような施策をとれば、どれだけの負荷低減につながるのか。カーボンフットプリントを定量化された指標のひとつとして捉える。

高効率な製造ラインを構築できないか。
商品の容器包装はどのようにあるべきか。
商品の輸配送はどのようにおこなうべきか。

.....

**見えたから分かること、見えたからできること
を考え、実行する。**

環境憲章

環境理念

日本ハムグループは、自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことは私たちの責任であると考え、企業活動のあらゆる面で継続的に環境保全に取り組みます。

環境行動指針

我々は、環境問題への理解を深め、一人一人の業務において、環境へのやさしさを実践します。

1. 環境・安全に配慮した商品・サービスの開発に努めます。
2. 省エネ・省資源・環境負荷低減に努めます。
3. 推進体制の整備や意識向上をはかり、環境管理システムの充実に努めます。
4. 法規制の遵守はもとより必要に応じて自主基準を設定し、環境保全水準の向上に努めます。
5. 環境保護活動を通して、地域社会との協調・融和に努めます。

ご静聴ありがとうございました



Nippon Ham Group

人輝く、食の未来